

# DX計画



株式会社 大東スピニング  
DAITOH SPINNING Co., LTD.

# 目次

- ・経営ビジョン
  - DXを取り巻く社会環境の変化
  - DXビジョン
- ・DX戦略
  - DX推進体制
  - デジタル人材育成・確保
  - 環境整備
  - 投資計画
- ・成果指標

# 経営ビジョン

株式会社大東スピニングは、スピニング加工機製造の技術を基盤に、データ共有とデジタル技術の活用により、生産性向上・品質向上・顧客価値創造を実現します。私たちはDXを単なるIT導入ではなく、社員の知恵と現場情報をデータとして共有し、組織全体で価値を生み出す変革と位置づけています。

## DXを取り巻く社会環境の変化

製造業界では、人手不足・長時間労働・原材料高騰などの課題に加え、サイバーセキュリティ強化・ペーパーレス化・脱炭素対応が急務となっています。

当社はこれらの変化をリスクではなく成長の機会と捉え、リアルタイムな情報共有とデジタル化による業務・情報の一元化を進め、柔軟で強い経営体質を構築します。

株式会社大東スピニング  
代表取締役 藤村 明彦

# DXビジョン

経営ビジョンを実現するために、現場の知恵とデジタル技術を融合し、全社員がデータを活用して改善・成長できる組織文化を戦略の柱とした3段階で計画的にDXを推進する。

業務データの収集・可視化・分析を通じてデータドリブンな意思決定を行い、現場主体の改善活動を促進することで、持続的な成長と新たな価値創造を実現する。

## 戦略の柱

### ・リアルタイム運用の実現

生産・販売・経理・品質情報をリアルタイムに連携し、業務データを迅速に共有・可視化することで、迅速で的確な意思決定を可能にする。

### ・業務と情報の一元化

クラウドERP・kintone・Microsoft365を統合し、入力・共有・分析を一体化する。  
業務データを蓄積・分析することで属人化を解消し、データに基づく全体最適な業務運営を実現する。

### ・顧客価値創造

受注から検収までの工程データや品質データを活用し、リードタイム短縮、品質安定、工程の見える化を実現することで顧客満足度の向上につなげる。

### ・人材と文化の変革

データ活用やデジタルツールを使いこなす人材を育成し、現場が自らデータを分析し改善提案を行う文化を醸成することで、継続的な業務改善を実現する。

# DX戦略

## 第1段階（2025年度）

### 【つなぐ】ー データ連携と可視化の基盤づくり

紙・Excel・個別システムに分散した情報をつなげ、全社的にデータを共有・統合する。クラウドを中心に「入力したらすぐ見える」仕組みを整える。これにより業務データの蓄積と可視化を進め、次段階のデータ分析・業務改善につなげる。

### 具体施策

- ・ 業務BPM設計（全体最適視点で業務フローを可視化）
- ・ Microsoft365／Freee／kintone連携構築
- ・ OCR・フォーム入力化で紙をデータ化

### DXキーワード

ペーパーレス／データ共有／クラウドERP

# DX戦略

## 第2段階（2026年度）

### 【見る】－リアルタイム経営とデータドリブン文化

現場・事務・経営層が同じデータをリアルタイムに共有し、業務データの分析を通じて改善活動を推進する体制を構築する。

営業・業務・製造の各データを可視化し、受注傾向、作業時間、工程進捗状況などを分析することで、業務改善と生産性向上につなげる。

### 具体施策

- ・スマートフォン／タブレットから現場データを入力し、kintoneを中心としたシステムに即時反映することで、リアルタイムな情報共有を実現する。
- ・BIツール、kintoneの集計機能を活用し、業務データを可視化したリアルタイムKPIダッシュボードを構築する。
- ・見積・受注データ（Freee等）を分析し、受注率や案件傾向を把握することで営業戦略の改善に活用する。
- ・日報データ（業務内容・作業時間）を分析し、業務配分の最適化や直接利益を生む業務への集中を図る。
- ・品質データ（不良率・手直し・クレーム等）を収集・分析し、不良発生要因の把握と品質改善を推進する。

### DXキーワード

リアルタイムデータ共有／KPIダッシュボード／受注データ分析／業務生産性最適化／データドリブン改善

# DX戦略

## 第3段階（2027年度）

### 【動かす】－ 現場主導の改善と新しい価値創造

現場が自らデータを分析し、改善提案と実行を行う仕組みを構築する。  
データ分析結果を基に改善計画を立案し、実行・効果検証を繰り返すことで、  
継続的な業務改善と価値創出を実現する。

### 具体施策

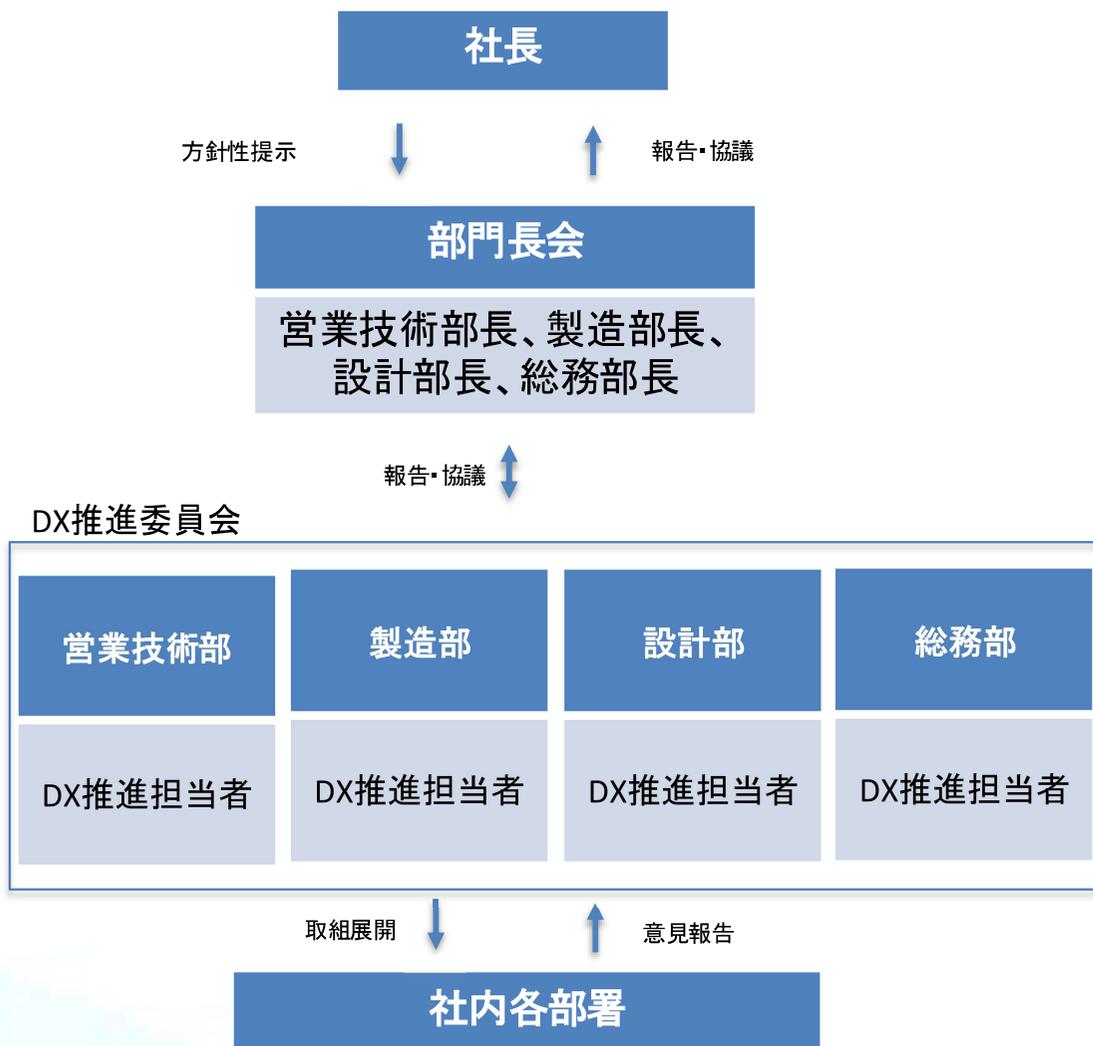
- ・ シチズン開発制度の導入（kintone・Power Appsを活用した業務アプリ内製化）
- ・ IoTによる機械稼働データの自動収集と分析
- ・ AIによるデータ分析（異常検知・需要予測）
- ・ データに基づく改善提案制度の導入および社内共有

### DXキーワード

データドリブン経営／AI・IoT活用／シチズン開発／継続的業務改善

# DX戦略 DX推進体制

- ・DX推進プロジェクトを設置し、代表取締役社長を実務執行統括責任者とします。
- ・各部門からDX推進担当者を任命、DX推進委員会を結成し、当委員会が中心となりDX戦略を進めていきます。



## 役割分担

役割	説明
代表取締役社長	DXの実務執行総括責任者。 DXの全社方針を掲示し、経営資源を配分。
部門長会	部門横断的な課題共有・人材配置・教育支援を担当。
DX推進委員会	営業技術・製造・事務の代表で構成し、DX計画の策定・実行・効果測定を担当。 Microsoft 365・kintone・Freeeなどを中心にシステム連携・アプリ開発・データ整備を実施。

## コミュニケーション方針

会議	詳細
DX推進委員会会議	隔週に1回程度開催 DX戦略の事項計画策定、進捗・課題・成果等の確認、従業員の意見集約等を実施
部門長会議	1ヶ月に1度程度DX推進委員を含めて開催 DX推進委員会での議論内容を報告・相談
社長への報告・提案	2ヶ月に1度程度開催 DX推進委員会と部門長会での議論内容を部門長会から代表取締役社長へ報告

# DX戦略 デジタル人材育成・確保

当社は、全社員がデジタルを理解し、現場の課題を自ら改善できる人材を育成します。  
以下の4段階で、教育・実践・評価を計画的に進めます。

## ① 基礎理解(デジタルリテラシーの底上げ)

全社員を対象に、生成AIやMicrosoft 365・kintone・Freeなどの基本操作を学ぶ研修を実施。  
動画教材やハンズオン形式で“入力・共有・自動化”を体験し、月例ミニ研修とFAQで習熟を支援します。

## ② 業務適用設計(データ活用ポイントの明確化)

各部門で業務とデータを棚卸し、改善テーマを設定。  
DX推進委員会が優先度を整理し、データ活用マップを作成して年度ごとの重点領域を決定します。

## ③ 利用指針策定(安全なDX活用ルールの整備)

AI利用・個人情報・著作権・データ共有に関する「社内DXガイドライン」を策定。  
全社員研修でルールを周知し、安心してデジタルを活用できる環境を整えます。

## ④ PoCと効果測定(小規模実証と成果共有)

各部門が小規模PoCを実施し、業務効率や誤入力減少などをKPIで定量評価。  
DX推進委員会が四半期ごとに成果を集計し、経営会議で共有・改善します。

# DX戦略 環境整備

## 投資計画

2027年度末までに総額1,000万円までを上限として段階的に投資する。  
各フェーズ完了時に振り返りを行い計画を最適化し予算を執行する。

フェーズ	主な投資内容	予算上限(万円)
2025年度	クラウド導入・タブレット試験配備	100
2026年度	データ整備・追加デバイス・社員研修	300
2027年度	AI・IoT拡張・セキュリティ強化	600
合計		1,000

# 成果指標

KPIは経営会議で四半期ごとにレビューし、達成度を基に改善計画を更新します。

フェーズ	重点KPI	測定方法・取得方法	計算方法・確認タイミング	担当・報告先
2025年度	紙書類削減率	複合機の月次レポート	基準年度(2024)平均印刷枚数=100%。月次で「当月/基準比」を算出し、月末にグラフ化し社内SNS共有。	DX推進委員会 → 部門長会議
2026年度	業務報告入力定着率	ERP・kintoneログ	月末に「入力件数 ÷ 延べ作業日数」で算出。	DX推進委員会 → 部門長会議
2027年度	シチズン開発アプリ数	Power Apps/kintoneアプリ公開一覧	四半期ごとに公開アプリ数を集計、累計更新。	DX推進委員会 → 部門長会議
全期間	売上(前年比+5%目標) 機械稼働率/改善提案件数/日報提出率	ERP会計モジュール IoTログ・日報・検収データ	月次:締後に自動集計し速報値共有。四半期:前年同期比を確認。 (売上高-売上原価)÷売上高×100) BIで自動集計し毎月DX推進会議で確認。改善提案数は前年比増加率で評価。	DX推進委員会 → 全社会議